

みずみどり

2000年11月15日 第21号

発行：いたばし水と緑の会 事務局

年会費 2,000円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会

ホームページ <http://www.ne.jp/asahi/nature/land/index.htm>

E-mail: mizumidori@nifty.com

〒173-0032 板橋区大谷口上町28-7 江戸方

赤塚公園

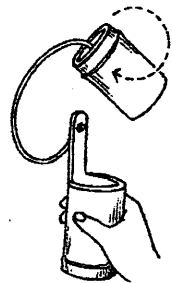
自然発見ウォーキング2000

11月18日(土)

10時～3時の好きな時間に美術館前からスタート

みんな来てね！！

紅葉の赤塚城址公園と周辺を歩く「自然発見ウォーキング」は、ふつうに歩いて30分位の距離ですが、道しるべをたどって、自然を探し、道草しながらゆっくりゆっくり歩きます。一周した後は、ひろったドングリ・落ち葉・竹をつかった工作や、木の葉図鑑をつくりませんか（会場は城址広場）。



野外教室もあります 14:00～

「赤塚公園の植物を知ろう」

講師：大東文化大学生物生態学研究室
島井誠司

参加される方は美術館前の受付へ

対象：大人から子供までどなたでも参加できます。参加費：無料

持ち物：落ち葉・ドングリを入れる袋、竹の工作には切り出しナイフと軍手があれば便利

主催：いたばし水と緑の会・板橋区環境保全課

雨天の場合は5丁目集会所で工作と展示(1時～)

小雨の中の『荒川クリーンエイド』

下田 沢子

例年晴天に恵まれてきた“荒川クリーンエイド”でしたが、今年はいにくの雨で参加の予定だった皆さんは迷われたのではないのでしょうか？

ところがこの雨の中やっちゃったんですよ。会場は板橋区立生物生態園内及びその周辺、参加者は大人30名・子供10名でした。一見したところ昨年まで実施してきた笹目橋下の会場よりきれいで、拾うごみが見当たらないと思ったほどです。4人一組になり、燃えるごみ・燃えないごみ・缶・ビンと4種類のごみ袋をもって一斉に散らばりました。柵で囲まれた生物生態園の中にもかかわらず、始まってみると次から次とごみの入った袋が集まりだしました。子供たちはごみを拾いながらバッタなどの虫に歓声をあげたり、意外なごみに驚き憤慨したり・・・、冷たい雨のなかの楽しそうにも見えたので少々ホッとしながら続けました。

川辺では漂着物に混じった釣り用品のごみの多さに釣り人のモラルを疑わざるを得ませんでした。ビニール袋に入った犬のフンにしても、この河川敷を利用するなら守らなければならないルールがあるのではないのでしょうか。こういう人達は、自分たちの住む町ではどうなのでしょう？

いろんな疑問を残しクリーンエイドを終えました。参加者の皆さんお疲れさまでした。そして、みどりと公園課はじめご協力いただいた皆様ありがとうございました（雨のため午後の予定は中止しました）。

【ごみ調査】

散乱ごみワースト5

1位	いろんなプラスチック製品と破片	121
2位	タバコの吸殻とフィルター	151
3位	紙くず・紙片・ダンボール	77
4位	飲料缶	71
5位	ペットボトル	70

粗大ごみワースト4

1位	自転車	3
2位	ビニールシート	3
3位	タイヤ	1
4位	チェーン	1

収集ごみ袋数 約45袋

【水質調査】（場所：生物生態園 戸田橋上流 右岸）

気温	12.5℃	pH（水素イオン濃度）	7.6 (7.3)
水温	15.7℃	COD（化学的酸素消費量）	6 (6.8)
水の色	うす茶	アンモニウム体窒素	1.6 (2.2)
透視度	33 cm (28)	亜硝酸性窒素	0.2 (0.2)
臭い	なし	硝酸性窒素 見かけ値	2

()内は今年の平均

徳丸が原公園内の自然池植物調査

大西 優



天気予報で午後は雨の予報もあり、どんよりした空を見上げて、会員や池づくりに応援して下さった町会の人たちが集まって来ました。

一時期よりずっと少なくなってきましたが、数匹のトンボやチョウが飛び、水面でアメンボが遊んでいました。

アマガエルが草の葉の上にいるよ、とか、思い思いの話をしているところへ、今日の講師で水研の尾坂さんが見えられました。

さっそく尾坂さんから池全体の話を聞いたあと、ひとつ一つ草花の種類や特徴を説明してもらいながら、池を一周して見て回りました。

普段見てもつい見落してしまう小さな植物等もひとつ一つ取り上げていただき、また、会員の方からも「あれは？これは？」と活発な質問が出て、思いがけないほどの多種類の植物を見つけ、そして初めて聞く名前、同じ種でもちょっとした所が違うだけでも別の名前があることに驚き、また、会員のみんなで作り、育ててきた池にこんなに多種類の植物が生えてきたことに感激しました。

池を作ったばかりの時、何種か植えましたが、池づくりに使った土の中に眠っていた種や、風で運ばれてきた種等が自然に自生してきたものが多く、自然の回復力に驚きました。

ビオトープは、最初は一年草が多く、年と共に多年草に移り変っていくような話もありました。これからも池に生えてくる草花の移り変わりなども楽しみにしたいと思います。

池の水は作った時に入れただけで、一度も補給水を入れることなく、水源を持たないこの池が水量の増減こそはありますが、雨水で確保されてきました。自然に感謝！！

雨が途中から降り出し、草木の緑がさえ、また、植物には必要なことですが、でも我々の行動はすっかり制限されました。

そんな中、これから池づくりをどうするか、後方の石垣にはトカゲなどもいるので、一部だけ

とり壊し、水生の昆虫が後方に移動できるよう、また、住めるよう土を柔らかくしたり、落葉を溜めたいなど楽しい意見がたくさん出てきました。

これらは区の「自然回復ボランティア活動講座」の中で話し合う機会があるようなので、その時まとめていこうということになりました。

途中、雨が降り出したこともあり、見落している草花がまだたくさんあると思います。

当日参加できなかった会員方も散歩等で同池を訪れて、見落された草花を見つけてください。

私が記録したここの植物は次のとおり。

アリタソウ、アキメヒシバ、シロザ、ホウキギク、クレソン、ヘクソカズラ、ヤブガラシ（ピンボウカズラ）、イグサ、メヒシバ、イヌビエ、ヌカキビ、エノコログサ、コブナグサ、オヒシバ、アキノエノコログサ、オモダカ、カヤツリグサ、サンカクイ、ヒメクグ、ガマ、アメリカセンダングサ、オオブタクサ、セイタカアワダチソウ、タカサプロウ、コシロノセンダングサ、セイヨウタンポポ、ヨモギ（モチグサ）、ケキツネノボタン、セキショウ、チドメグサ（ノチドメ）、イヌタデ、オオイヌタデ、ツユクサ、ドクダミ、エノキグサ、トベラ、エノキ、ノイバラ、ヒナタイノコスチ、ヒガンバナ（マンジュシャゲ）、タコノアシ、ミソハギ、コナギ、

公園について思うこと

嶽野香

最近の公園って、すべてがそうだとは言い切れないけれども、きれいに整備はされているけれども、やはりどこか人工的な感じは否定できないものがあります。

私の子供時代は緑豊かな武蔵野の面影濃い埼玉県上福岡市で育ち、公団住宅でしたが庭のある1階に住んでいましたので、土も緑もあり、そこで近所の子供たちと池を作ったり、子供だましではありましたが、木々を集めて小さなシーソーのようなものを作ったりして、常にすぐ隣に自然を感じて育ってきました。近所の子供たちは学年も異なるし、小学校に入ってない子供もいて、1つの遊びや作業に向かって異年齢の子供たちで助け合うということも、同時に学んだ気もします。

そんな経験があるからか、コンクリートの地面に木がきちんと整備されて植えられていたり、花がきちんと花壇の中に植えられているのを見ていると、どこか人工的で、いやされた気分にはなれないのです。

草むらの中に春はれんげや菜の花が一面に咲く。夏には夏草が思いっきり草の匂いを充満させ、蝉時雨のBGMが流れる。秋はコスモスが咲き乱れ、ススキの穂が秋風にゆられ、コオロギやス

ズムシの泣く声を夜ごとに聞いて眠りにつく。どんぐりや松ぼっくりを拾って工作するのも、自然を身近に感じることの1つ。冬場は草が枯れた原っぱで、みんなで焼き芋を焼いたりするのも楽しいし、たこ上げなんかもよいのでは……。

これが私の理想の公園像です。

昨年、友人と彼女の子供と一緒に、東板橋公園に行きました。そこは野球場もテニスコートもあり、また、小規模ですが動物園や水族館も設置されていて、公園としての設備は充実している方だと思いますが、何よりもましてアスレチックの広場の所には木や竹が普通に生えていて、私が遊びに行ったときは真夏でしたが、土の地面の中、周囲は木々におおわれていて、コンクリートの上ではただただ日差しが照り返して立ってられない状況ですが、木は熱を吸い取り、土は真夏の強い日差しを吸い込むため、”自然の涼“を都会にいながらにして感じる事ができてうれしかったのを覚えています。

土の感触、夏草の匂い、野に咲く花々、セミやトンボが飛び回る、秋の虫の鳴き声、自然に流れ出る湧き水。21世紀になっても私がぜひ残してほしいと思う公園の姿です。

荒川に水草をさがして

坂本郁子

自然の場所をつくろうとすると、陸性の植物は周囲から入ってきますが、湿地が近くにはないときは、水草が自然に運ばれてきて育つには時間がかかります。それまで待とうという考えもあります。

水草は自然の場所の大切な要素です。水草の茂みがあれば、小さな生き物は外敵から身を隠すことができます。また、トンボには水草に産卵する種類もあります。そんな理由で、水草だけは少し植えたい。板橋に昔からあった自然を取り戻そうとするのだから、水草は地場ものでなければならない。しかし、板橋区内に昔からある湿地や沼はとうの昔に消え失せ、近くで水草のありそうな場所と言えばもう荒川しかありません。

この夏に、まず岩淵のコンクリート護岸に張りついて生えていたイグサとサンカクイを数株採取。次に戸田市彩湖自然学習センターで、トダスゲ、タコノアシ、ヒシをもらってきた。ヒシは水面にスイレンのように葉を広げるが、キンギョモのような長い根というか茎があり、ザリガニにチョコキンと切られたら終わり、絶対ザリガニと共存できない水草だそうです（だから今の時代に自生することがむずかしい）。また釣巻さんから情報を得て羽根倉橋の休耕田の溝からコナ

ギ（ミズアオイの仲間）とついでにオモダカを少々取ってきました。水草は1年草も多い。これから板橋区でビオトープをつくるなら、荒川の水草を種から育てる場所も絶対欲しい。

荒川に突然出現したビオトープ

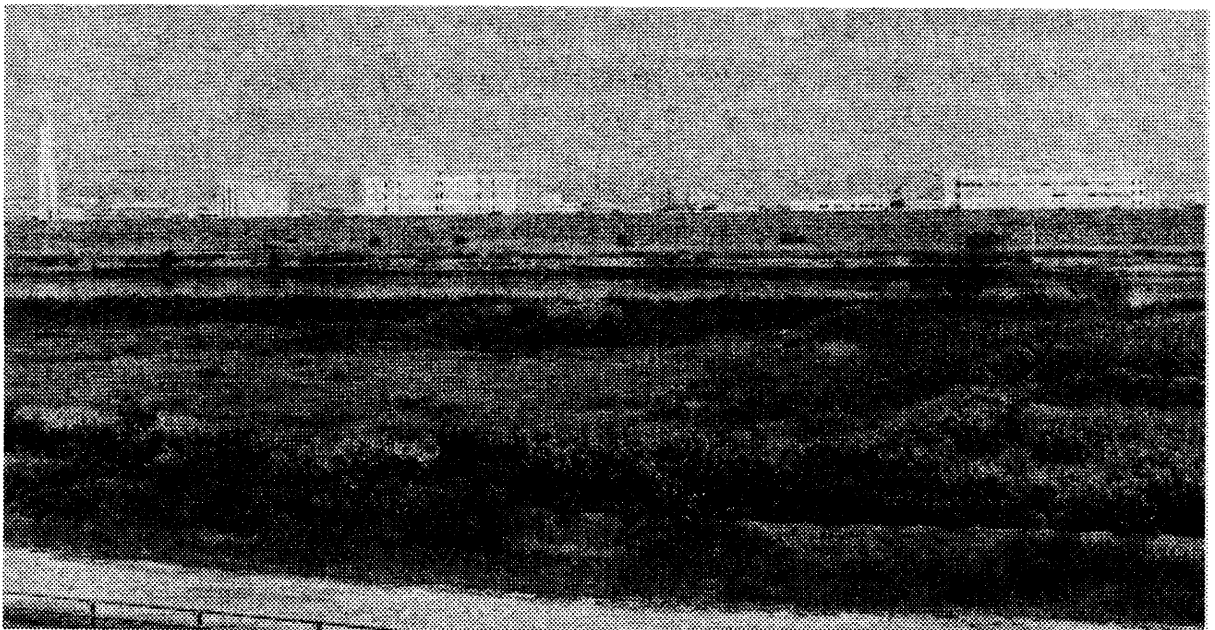
そんなある日、蓮根第2小学校の池に荒川から採取してきたというミズアオイが生えていました。エーッ！！探し求めていた水草が板橋の荒川河川敷にあるなんて！！

ところがありました。河川敷に湿地が出現していたのです。場所は区が整地した自然地ではなく、荒川下流工事事務所が管理しているところ。仮置きした土を運び出した結果、少々くぼみが出来て、少々水がたまった、そして土に埋もれていた種が芽を出したというわけです。キシウズメノヒエやガマも生えていて、カエルもいっぱいいます。場所は笹目橋下流のグラウンドがとぎれるところ（高島平駅からまっすぐのあたり）、もう1カ所は生物生態園の上流側です。

北区にミズアオイの群落が・・・

同じようなことが北区でもあったそうです。表土を少しいじった場所で、ミズアオイが芽生え、青い花が一面に咲いて、それはそれはきれいだったそうです。ゴルフ場から流れ出したと思われるメダカも泳いでいるというおまけ付き。

その年その年の雨量にもよるでしょうが、こんなちょっとしたことで自然が戻ってくるのですね。湿地はいずれ陸になるそうです。また別の場所の土を少し運び出してやれば・・・限りなく自然に近い手法による自然回復ではないか・・・と思った次第です。笹目橋の大規模自然地予定地で、もし、土を仮置きして別の場所に移せば、ああそれだけで・・・



笹目橋下流約1.4km荒川右岸に出現した湿地、今年4月以降に出来た。チョウトンボ、ヒロバネカントンも見られた。
2000年10月中旬撮影坂本郁子

赤塚公園ヒメスズメバチ捕獲記

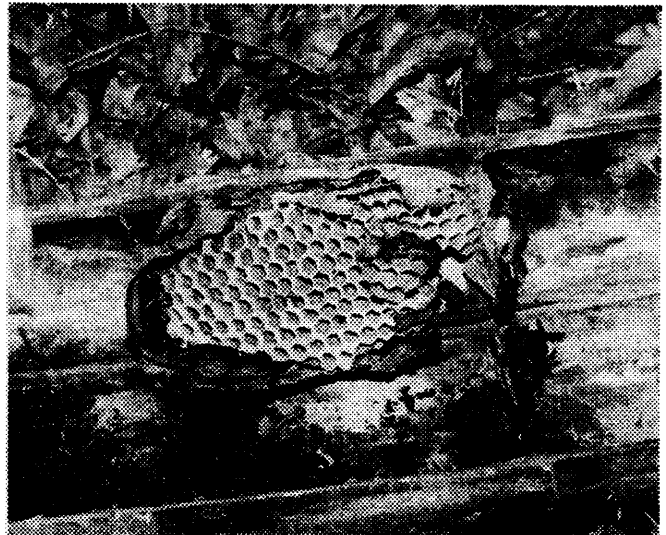
干場 英弘

10月3日、坂本さんからe-mailで「赤塚城址付近にスズメバチの巣があるので恐くて作業が出来ない」との通報があった。本州には大型のスズメバチ（Vespa 属）は従来、オオスズメバチ、モンズズメバチ、キロスズメバチ、コガタスズメバチ、ヒメスズメバチの5種が生息し、オオスズメバチは主に土中に、モンズズメバチとヒメスズメバチが主に地上の閉鎖空間に、残りのキロスズメバチとコガタスズメバチがそれぞれ軒下や樹木の枝などの開放空間に営巣する。いつの頃から板橋では都市化に伴って特にオオスズメバチは姿を消しコガタスズメバチが主流となっていた。しかし、最近ではニホンミツバチが都会に繁栄してきたのに伴ってか、オオスズメバチも時折姿を見せるようになった。一方、各種のアシナガバチを襲い、幼虫のみを餌としているヒメスズメバチも何故か都会で増えているようである。



10月6日、営巣状況を電話で話し、状況からヒメスズメバチと判断し、それに合わせて持ち物を整えて、坂本さんと高島平駅で合流した。彼女の案内で営巣場所を確認して作業に取り掛かった。しかし、竹筒は大きすぎて予想以上に頑丈であったため、持参していた簡単な道具ではどうにもならない。運良くちょうどそこで作業をしていた人が野外で使うドリルを持っていたのでお借りし、入り口をビニール袋でふさいだ後に直径1.5cmくらいの穴を空けてエーテルを注入した。

まもなく麻酔が効いておとなしくなるので竹を割ったところ、写真のような巣が出てきた。幼虫・蛹は1頭もなく、働き蜂とオス蜂の1頭ずつを除くとすべて次世代の女王蜂ばかりで捕獲した限りでは42頭が残っていた。エーテルが成虫を直撃したらしく、外に出ていた数匹を除いてすべてが即死状態であった（ハチを愛する私としては生かしておきたかったのに…）。今回の作業では充電式電動ドリルも七つ道具に入れておくべきことを勉強した。



活動のお知らせ

どなたでも参加できます。くわしいことはそれぞれの連絡先にお問い合わせ下さい。

運営委員会は具体的な活動の内容を話し合い決定する場です。従来の定例会はなくなりますが、運営委員でなくても運営委員会に参加しどしどし意見を言ってください。

12月運営委員会 12月1日(金) 18:30～20:00 エコポリスセンター3階会議室

1月運営委員会 1月5日(金) 18:30～20:00 エコポリスセンター3階会議室

1月会報印刷・発送 1月15日(月) 17:30～ エコポリスセンター3階会議室

●赤塚公園の維持管理について

観察会と話し合い

日時: 11月25(土) 10:00～12:00

場所: 美術館前

赤塚5丁目集会所

内容: 東京都公園協会と城趾を観察し、草原のこと、ビオトープ、竹林の維持管理について話し合います。

連絡先: 植田(3958) 9209

その他: 雨でも実施します。

東京都公園協会廣木さんと赤塚公園管理所の市川さんに来ていただきます。

●乗蓮寺下池の泥さらえなど

日時: 12月2日(土) 10:00～12:00

場所: 浄蓮寺下池

内容: 落ち葉や土が積もって浅くなった池の泥を掘り上げ、キンギョを取り、周囲を少し掘って湿地にします。

連絡先: 釣巻(3961) 2875

服装等: 長靴など汚れてもよい服装と軍手

自然回復ボランティア活動講座から

●昆虫調査から見えてきた板橋の自然

日時: 12月13日(水) 18:30～20:00

場所: 産文ホール会議室

講師: いたばし水と緑の会 釣巻岳人

内容: 住民参加で実施した昆虫調査の結果からわかったこと。採取した昆虫の展示もします。

連絡先: 環境保全課(3579) 2598

●身近な自然を守るために

日時: 1月17日(水) 18:30～20:00

場所: 産文ホール会議室

講師: みずとみどり研究会・東京都の自然

環境保全審議会委員 星野 順子

内容: 自然保護条例はどう変わるのか

連絡先: 環境保全課(3579) 2598

お願い

●昔出会った生き物の話、草遊び、取って食べた魚や野草の話など原稿をお寄せくださるか、お話を聞かせてください。

釣巻または坂本まで